

～古代へのいざない～

テーマ：**ヤマト王権の起源**

講師：関西大学非常勤講師 若井 敏明先生

日時：5月8日（月） 10:00～12:00



①ヤマト王権の起源

神武東征の再評価 九州から列島中央部への移動の一例 それ以前、それ以後にもみられたはず 東征をうながした事情 九州での状況

②神武天皇の東征伝説

「古事記」・・・二柱、高千穂宮に座して議して云く、「何地に座して、平かに天下之政を聞看ん。東せんと思う」即ち日向より発して、築紫に幸行す。

③東征ルートからわかること

神武の出発地 古事記：日向→豊国の宇佐→筑紫の岡田宮

日本書紀：日向→速吸之門→宇佐→岡水門

大和平定のルート 紀ノ川ルートの可能性（古事記）

大和平定の戦い（古事記）



畿内の先住勢力としてのニギハヤヒ ニギハヤヒの降臨（先代旧事本紀・天神本紀）
ふたつのニギハヤヒ聖地 大和南東部鳥見山周辺と河内生駒山西麓→のちの「物部」氏

④初期ヤマト王権の祭祀

「日本書紀」神武四年二月甲申条
「日本書紀」神武即位前期
橿原の意義 神聖な木としての橿
「日本書紀」垂仁天皇二十五年 一に云く。
天皇、倭姫命を以ちて御杖として天照大神に
貢奉りたまふ。是を以ちて倭姫命、天照大神を
以ちて磯城の巖橿の本に鎮め坐せて祀る。

久米という地域 初期ヤマト王権の最前線
神武天皇の侵入路（宝賀寿男氏による）の説明



⑤神武東征を否定した津田左右吉の真意

「神代史の新しい研究 1913年」

- ・皇部が日向にあったのは普通考えられているように明白のことでは無い。けれどもそれが筑紫地方にあったことだけは、別に疑いを容れなければならぬ理由がない。
（中略）神武天皇東征物語のきそとして、少なくとも皇室が筑紫から起こって東方を平定せられたというだけの伝説はあったものと見るのが穏当であろう。

「古事記及び日本書紀の新研究」

- ・日向・大隅・薩摩地方、未開地、物資の供給も不十分で文化の発達もひどく後れている地がどうして皇室の発祥地であり得たか。

「控訴院への上申書 1942年」

- ・（神武東征）この物語ではヤマト平定の終始が明らかにわからないのみならず、御東征の前にはヒムカに都があったということに、根本的な疑問があるのでありまして、・・・中略・・・

我が皇室は新たに海外から渡来あらせられてもとからこの国に住んでいた民族の上に君臨あらせられ、或いはそれを征服あらせられた、というような説が、ヒムカの都の存在を歴史的事実として信ずるところから生じているからであります。以下略

以上から色々なことが見えてきます。

午後のクラスミーティング

班会議と全体会議

- ①班役員の確認
- ②班活動内容の検討
- ③校外学習先の検討
6月19日大阪歴史博物館に決定
- ④交流祭実行委員の選出

